

材料少ない週となるが、英物価統計や新興国中銀動向など注目へ

2018年9月17日(月)

英、欧州、トルコの政策金利発表や、米国の物価統計など、いろいろな材料が出て、市場の反応も見られた先週。今週は一転して目立った材料に欠ける週となっています。

経済指標の中で、比較的注目を集めそうなものは19日の英物価統計(8月)ぐらいのもの。

英国の物価統計は消費者物価指数の前年比が+2.4%と、7月分の+2.5%から鈍化見込みです。同時に発表される生産者物価指数などの数字も鈍化が目立っており、英国の物価自体に落ち着きが見られる状況となっています。

米国に続いて利上げサイクルに入った英国ですが、ブレグジットへの警戒感も残る中で利上げペースは米国よりも慎重なものとなっています。今回の結果を受けて、物価の上昇傾向が落ち着くということで、当面の金利据え置き見通しが強まりそうです。

なお、金利市場動向などからみた次回11月の英金融政策会合(MPC)での利上げ確率は、春ごろまでほぼ半々といったところで推移していましたが、ここに至り5%程度まで落ち込んでおり、当面の据え置きを完全に織り込む格好となっています。

英中銀の会合自体は年8回ですが、利上げがもし行われるならば、その半分、年4回のスーパーサズデーでの実施となる可能性が高いため、スーパーサズデーベースでみると、5月の会合まで据え置きという見通しが大勢となっています。金利市場動向からは、次回の利上げは来年夏の見込みが大勢という状況です。

今回の英物価統計が予想通りの数字を示してくると、市場のこうした金利見通しを支える格好でポンドはやや軟調な推移となる可能性がありそうです。

今週、経済指標以外で注目されるイベントとしては、新興国通貨動向があげられます。

先週のトルコ中銀の大幅利上げを受けて、今週予定されている南アやブラジルなどの中銀会合結果に注目が集まるところです。共に金利は据え置き見通しも、一部で利上げ期待が広がっています。

19日から20日にかけて(詳しい発表日時は未定)発表されるブラジル中銀の政策金利は、今年3月の会合で0.25%引き下げられて現行の6.50%になり、その後の会合では据え置きが続いています。

今回も据え置き見通しが濃厚となっていますが、一部で0.25%の利上げで6.75%に戻すという期待が見られます。通貨安の流れが目立つ中で、トルコ同様に物価の抑制と通貨安防衛での利上げに踏み切る可能性が意識されています。

ただ、ブラジルの場合、来月の大統領選に向けた動きが広がっている中だけに、中銀の動くタイミングとしては今回はあまり適切とは言いがたく、据え置き見通しが妥当という印象です。

続いて、20日の南ア中銀の政策金利です。こちらでもブラジルの政策金利と同様に3月に0.25%引き上げられて6.50%になって以来、据え置きが続いています。

リラ安の影響もあって値を落とす場面が見られる南アランドは、7月の消費者物価指数が前年比+5.1%と一気に0.5%の上昇。19日に予定されている8月分の消費者物価指数も5.2%と3カ月連続での上昇を示す見通しとなっており、利上げへの動きが一部で期待されるところです。

もっとも、南アの物価の場合は、上昇したといっても中銀のターゲット(3%から6%)の範囲内です。そのため今回慌てて利上げに向かうとみる向きはごく少数派です。

先週のトルコの件があっただけにやや神経質になっていますが据え置き見通しが大勢だけに、波乱なく推移する可能性の方が高そうです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ